

事項	夏秋ギク「精の一世」の親株養成方法																																																																																																																																																																				
ねらい	夏秋白輪ギク主力品種「精の一世」を本県で採穂して栽培する場合の親株養成時の温度及び電照方法が明らかになったので、参考に供する。																																																																																																																																																																				
指導参考内容	<p>1 8月から10月まで採花する場合の養成方法 最も低コストな親株養成方法であるが、採花期間に限られる。</p> <table border="1" data-bbox="347 421 978 622"> <thead> <tr> <th>作業</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採穂</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◆</td> <td></td> <td></td> <td>◆</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>親株管理</td> <td colspan="12">無加温・無電照</td> </tr> <tr> <td>栽培管理</td> <td>※</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>V</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>■</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. ※: 親株伏せ込み、V: 採穂・さし芽、◎: 定植、■: 採花 2. 定植後の電照・シェードは省略、また、採花期は暫定</p> <p>(1) 設定温度 パイプハウスにおいて、12月に切り下株を伏せ込み、その後、採穂終了まで無加温にする。 この場合、ビニール等によるトンネル被覆を行ってはいけない。</p> <p>(2) 電照処理 行わなくてよい。</p> <p>(3) 採穂 4月上旬から6月下旬まで切り下株から発生した分枝を採穂する。</p> <p>2 7月から11月まで採花する場合の養成方法 長期出荷する場合の低コストな親株養成方法である。</p> <table border="1" data-bbox="360 1070 1098 1346"> <thead> <tr> <th>作業</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採穂</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◆</td> <td></td> <td></td> <td>◆</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>親株管理</td> <td>☆</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>電照</td> <td></td> <td></td> <td>☆</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>Ω</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5℃加温</td> <td></td> <td></td> <td>Ω</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>栽培管理</td> <td>※</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>V</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>■</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>V</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>■</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>V</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>■</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>V</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>■</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. ※: 親株伏せ込み、V: 採穂・さし芽、◎: 定植、■: 採花 2. 定植後の電照・シェードは省略、また、採花期は暫定</p> <p>(1) 設定温度 パイプハウスにおいて、12月に切り下株を伏せ込み、その後、採穂終了まで最低温度5℃で加温を行う。</p> <p>(2) 電照処理 伏せ込み後から採穂終了まで22:00から2:00まで暗期中断を行う。</p> <p>(3) 採穂 3月中旬から7月下旬まで切り下株から発生した分枝を採穂する。</p>												作業	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	採穂					◆			◆				親株管理	無加温・無電照												栽培管理	※				V	◎					■	作業	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	採穂					◆			◆					親株管理	☆				電照			☆						Ω				5℃加温			Ω					栽培管理	※				V	◎					■							V	◎					■							V	◎					■							V	◎					■	
作業	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月																																																																																																																																																										
採穂					◆			◆																																																																																																																																																													
親株管理	無加温・無電照																																																																																																																																																																				
栽培管理	※				V	◎					■																																																																																																																																																										
作業	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月																																																																																																																																																									
採穂					◆			◆																																																																																																																																																													
親株管理	☆				電照			☆																																																																																																																																																													
	Ω				5℃加温			Ω																																																																																																																																																													
栽培管理	※				V	◎					■																																																																																																																																																										
					V	◎					■																																																																																																																																																										
					V	◎					■																																																																																																																																																										
					V	◎					■																																																																																																																																																										
期待される効果	親株からの採穂数を確保でき、低温で養成するためコスト低減につながる。																																																																																																																																																																				
利用上の注意事項	<p>1 本試験は、親株に切り下株を継続利用した場合の結果であり、親株更新を行った場合に関しては不明である。</p> <p>2 参考内容の1については、ハウス内は高温にならないように注意する。</p>																																																																																																																																																																				
問い合わせ先(電話番号)	農林総合研究所 花き部 (0172-52-4341)								対象地域	県下全域																																																																																																																																																											
発表文献等	平成26～27年度 試験成績概要集 (農林総合研究所)																																																																																																																																																																				

【根拠となった主要な試験結果】

表1 平成26年の生育及び収穫調査

(平成26年青森農林総研)

区名	加温状況	電照の有無	消灯日の早期出蓄率(%)	収穫調査	
				採花日(月日)	切花長(cm)
7月咲き	5℃	無	25	7/22	107
		有	6	7/20	109
	無加温	無	生育が遅く採穂不能		
		有	生育が遅く採穂不能		
8月咲き	5℃	無	0	7/31	94
		有	5	8/1	87
	無加温	無	0	8/1	90
		有	0	8/1	93
9月咲き	5℃	無	0	8/31	84
		有	0	8/31	83
	無加温	無	0	8/28	91
		有	0	8/30	89
10月咲き	5℃	無	15	10/25	101
		有	0	10/23	104
	無加温	無	0	10/25	97
		有	0	10/23	100
11月咲き	5℃	無	85	11/23	98
		有	0	11/26	100
	無加温	無	80	11/23	98
		有	0	11/26	102

表3 親株養成方法としての有効性のまとめ

(平成26・27年青森農林総研)

加温状況	電照の有無	トンネルの有無	年次	7月咲き	8月咲き	9月咲き	10月咲き	11月咲き
5℃	無	無	平26	×	○	○	×	×
			平27	△	○	○	△	×
	有	無	平26	△	△	○	○	○
			平27	○	○	○	○	○
無加温	無	無	平26	×	○	○	○	×
			平27	△	○	○	○	×
	有	無	平26	×	○	○	○	○
			平27	△	○	○	○	○
	無	有	平27	○	○	○	×	×

- ：定植時の1株当たり採穂数3本以上で、早期出蓄なし。
- △：定植時の1株当たり採穂数3本未満、又は早期出蓄10%未満
- ×：早期出蓄10%以上、又は採穂不能

耕種概要

項目	内容
1 親株養成	10月に採花した株を無加温無電照で栽培し、12月に6号鉢に1株伏せ込み、それぞれの処理方法で養成した。
2 育苗	(1) 挿し穂の採取・調整 イノチオ精興園株式会社から導入した挿し穂とほぼ同等するために、8cm以上になったものを採穂し、8cmに調整した。 (2) 電照：22:00～2:00の暗期中断を行った。 (3) 温度：最低10℃とした。

表2 平成27年の生育及び収穫調査 (平成27年青森農林総研)

区名	加温状況	電照の有無	1株当たり採穂数(本)	消灯日の早期出蓄率(%)	収穫調査	
					採花日(月日)	切花長(cm)
7月咲き	5℃	無	2.7	0	7/18	96
		有	4.6	0	7/18	97
	無加温	無	1.3	0	7/18	93
		有	1.1	0	7/18	91
	無加温トンネル	無	5.7	0	7/21	97
		有				
8月咲き	5℃	無	4.7	0	8/20	95
		有	3.2	0	8/14	93
	無加温	無	6.1	0	8/7	87
		有	7.1	0	8/9	87
	無加温トンネル	無	4.7	0	8/8	93
		有				
9月咲き	5℃	無	7.2	0	9/12	82
		有	7.7	0	9/13	83
	無加温	無	6.3	0	9/8	83
		有	7.4	0	9/11	79
	無加温トンネル	無	8.9	0	9/9	83
		有				
10月咲き	5℃	無	12.2	5	10/27	102
		有	14.1	0	10/27	105
	無加温	無	11.2	0	10/25	102
		有	14.8	0	10/26	97
	無加温トンネル	無	11.0	50	10/23	102
		有				
11月咲き	5℃	無	6.6	15	11/22	90
		有	10.6	0	11/22	98
	無加温	無	6.8	40	11/23	98
		有	11.3	0	11/22	110
	無加温トンネル	無	5.9	40	11/22	91
		有				